山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者　山本晃久
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎　083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

教育の「不易」を見逃さず、「先見性」を発揮する

山口県小学校長会　会長　山本晃久

一　はじめに

平成二十六年度が始まって早六か月が過ぎた。学校運営も順調に推進され、一年の折り返し点ともいえる様々な秋の学校行事に向けて、二学期を進めておられることと思う。

さて、本年度は、本会報もこれまでとは違い、年二回の発行とした。経費節減の取組の一つとして御理解を賜りたい。

二　教育課題の解決と「不易と流行」

教育再生実行会議から、第五次提言が公表された。昨年一月に本会議が発足して一年半の間に五本の提言が出されたことになる。

これらの様々な提言や中央教育審議会の答申などが施策として具体化される諸改革は、教育としての不易なのか、それとも流行なのかと考え込んでしまうことはないだろうか。そして、校長としてこれらの改革をどのように受け止め、先生方の理解を通して教育実践に反映させていけばよいか悩むことはないだろうか。

これからの日本は、「二〇四〇年には全国一八〇〇の市町村区の半分は存続が難しくなる。」とか「五十年後には人口の約四割が六十五歳以上になる。」とかいわれる。

そのころには、今の子どもたちが日本を支えるべき年代になっていることはまちがいない事実である。

しかし、これらがいくら予測できても、その時代を支える経済や社会、そして人の心がどのように変化しているかは想像し難い。したがって、社会がどのように変化しようとも、日本人としての生産性や付加価値のある人間性、豊かな人生を追求する環境の創造を求めつつ、教育においては、「自分でしっかり学び、世界に打って出られるようなタフな日本人」を育てていかなければならないということになる。しかも、「悠長に」ではなく「今すぐに」ということである。

このように考えるなら、全国学力・学習状況調査を通して語られる学力の質的向上や授業力向上、外国語教育や道徳教育の推進、いじめ防止対策の推進をはじめとし、現在進められている多くの教育改革は、「教育における不易と流行」でいうならば、正に「流行」であろう。

三　先見性のある学校経営

「流行」は必ず「不易」の上に成り立っていることを、私たち校長は忘れてはならない。

例えば、授業づくりにおいて、本時のねらいを子どもが明確にもつことは、学力向上を話題とする以前から、学習指導を行う教師にとっては当然の「不易」であった。また、子どもたちの多くの知恵が、地域の人や自然、文化や伝統と直接ふれ合い体験するなかで育まれることも「不易」であろう。

今後、学校職員の大量退職に伴い、若手職員が加速的に増える。彼らはまちがいなく「流行」漬けとなり、その根底に脈々と流れ、私たちが生涯を賭けて積み上げてきた「不易」の重みや大切さを知らないまま教職生活を歩むことになる。

私たち校長は、今後展開される様々な教育改革に関して、その改革の根底を流れる、いわゆる本質を見極め、「不易」と「流行」のコラボレーションを考える必要がある。そして、その本質を理解するならば、必ずやベテランあるいはミドルといわれる先生方の生かしどころも見つかり、人材育成に資するものと考えている。

県校長会では、定期的に開催する理事会においてもテーマを設定して研修を行っている。今年度のテーマは「先見性のある学校経営」である。

リーダーの先見性とは、「流行」の先を見抜くと同時に、「不易」を見逃さず、そのバランスを示すことである。

少なくとも私たち校長は、単に「流行」のみを追うリーダーであってはならない。

四　今後の取組

十月末に開催される秋季教育研究大会（岩国・和木大会）では、現代的課題を鑑み、同時に来年度に迫った全国大会（山口大会）を見通して、五領域十三分科会を展開する予定である。

是非とも一人ひとりの校長先生から「不易」を見逃すことなく、先見性に富んだ教育実践を御披露いただくとともに、互いが進むべき方向を確認し合いたいと考えている。

本年度は、山口県小学校長会長が中国地区の常任理事も兼ねているため、全連小の思いがダイレクトに伝わる。

山口大会は、五年周期の全連小研究テーマの三年目、つまり研究の折り返し点となる。残り二年間の方向が山口大会にかかるともいえることから、全連小の期待も大きい。

価値ある大会となるよう、県小学校長会の力の結集をお願いする。